

國學院大學學術情報リポジトリ

幼児の樹木画テストにおける「樹幹」の解釈と絵本に描かれた樹木について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 石川, 清明 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001310

幼児の樹木画テストにおける「樹幹」の解釈と 絵本に描かれた樹木について

石川 清明

【要旨】

幼児に対する樹木画テストの「幹部」の解釈について示唆を得るため、絵本27冊、保育雑誌の壁面装飾の34例に樹木がどのように描かれているのかを整理し、いくつかの知見を得た。絵本の約68%に切り株や洞などの「解釈の指標」が描かれており、幼児が指標をよく目にする樹木の形態と捉えることが推定された。また、切り株は、主人公などが憩うイスやテーブル、ステージなどとして描かれ、洞は、鳥やリスなどの小動物と共に描かれ、暖かい雰囲気と皆が集う場所や家として表現され、親しみの持てる場面が描かれていた。こうしたことから、幼児を対象とした樹木画の解釈にあたっては、成人とは異なったイメージをもとに描いている可能性に留意することの必要性和幼児の心理特性を考慮した視点に立った解釈の重要性について言及した。

【キーワード】

幼児 バウムテスト 樹幹 解釈の指標 絵本

I はじめに

幼児の描く樹木画は、「冠部」と呼ばれる枝や葉を描いた部分と幹 (trunk) とに分けられ、さらに花や実が加えられる。また、枝や葉の部分の周囲を輪郭 (外皮) が描かれることがあり「樹冠」と呼ばれている。一方、地中にある根の部分が描かれることは稀である。筆者は、投影法による人格検査として樹木を描くことを求める「樹木画テスト」(Baum Test)^{1) 2) 3)}を幼児を対象に実施して得られた結果を解釈する際に考慮すべき事項について、樹木画テストの教示ならびに樹冠の解釈において幼児の発達特性や特別な支援や配慮を必要とする幼児の特性に応じた視点の重要性を指摘した^{4) 5)}。その中で母親や保育者の評価によると家庭や幼稚園、保育所などで心身の発達や行動面を含め、生活上特記すべき事項を持たない幼児の描いた樹木においても、「洞」や「樹幹部の傷」など成人が描いた樹木画の解釈では必ず注目されて扱われる「解釈の指標」がみられることも言及した⁵⁾。

本研究では、「樹幹部」を中心として検討を加え、幼児の樹木画の解釈に必要な情報を得ようとした。幼児が樹木画を描く時、検査か自由画かによらず写生を除いて、これまでに形成された樹木の視覚的イメージを表現することになる。幼児が、ある時期に描く樹木の形態的特徴はほぼ

一定で、「概念画」⁶⁾と呼ばれ、同じような描き方をする。「今度は違う形の木をかくて」などと指定しない限り、描く度に異なった形態の樹木を描くことはあまり見受けられない。これらは樹木に限らず人、花、乗り物などにも広く共通してみられ、観察力や描画技術の発達の影響、特に手指運動の巧緻性なども影響していると考えられる。皆本は⁶⁾「造形の表現には作者が投影されており、子どものおはなしや心身の状態を作品から読みとることができる場合がある」と述べているように、描いた時点までに蓄積したイメージを描き出していると言える。また、幼児の描く自由画には、園行事で体験した運動会や遠足の一場面を好んで描いたり、好きなアニメーションのキャラクターや乗り物などを描き続けたり、年末にクリスマスツリーを描くことがふえるなど季節や環境、体験の影響を受けて描かれる対象が変化していくことも保育場面ではよく経験することである。

幼児が日常生活の中で目にする樹木は、庭木や街路樹など自生したものから絵本、紙芝居、TV番組やアニメーション、DVD、幼児向けの知育雑誌や塗り絵など多様であり、ある時点で描いた一本の樹木と樹木とのかかわりを定量化して関連をみることは困難と言わざるを得ない。幼児が樹木を一定の時間観察出来る経験の一つとして、絵本に描かれた樹木や幼稚園や保育所の保育室の壁面を飾る装飾に取り上げられた樹木などが考えられる。そこで、よく購入されている絵本やWeb上で検索頻度の高い絵本や保育雑誌などで描かれた「絵本の樹木」のなかで、樹幹を中心にバウムテストの「解釈の指標」となるものがどのように描かれているかを明らかにすることは、同テストの解釈に際して有益な示唆が得られるものと考えた。

Ⅱ 方法

1 対象とした樹木画の選定

1.1 絵本に描かれた樹木画

絵本の選定手続き：絵本のアマゾンランキング (<http://www.amazon.co.jp/gp/bestsellers/books/492378>：2015年7月2日現在)ならびに絵本ナビ、レビュー順位 (<http://www.ehonnavi.net/ReviewRanking.asp?skb=&k=>：2015年7月2日現在) からそれぞれ上位40位までの絵本延べ80冊のうち両ランキング間で重複していた絵本が20冊みられ、いずれかのランキングで上位の絵本は60冊であった。しかし、アマゾンランキングで3冊セットのシリーズ化した絵本とその内の1冊とが重複していたので上位59冊が対象とされ、そのうち本文中に樹木が描かれていた21冊が対象として選定された（表1参照）。なお絵本の書名等は資料1に示した。

また、樹木画テストで幹に関する解釈の指標となる「切り株 (stump)」「洞」に「絵本」を加え、これら3単語を検索語として得られた絵本6冊も集計の対象に加えた。（資料2参照）

樹木画の選定手続き：絵本の中に描かれた樹木について、それぞれの評価項目にみられた特徴

表1 樹木が描かれ対象となった絵本の冊数

ランキング	樹木が描かれていた絵本	樹木が描かれていなかった絵本	合計
アマゾンランキング	3 冊	16 冊	19冊
両ランキングに共通	7 冊	13 冊	20冊
絵本ナビランキング	11 冊	9 冊	20冊
計	21 冊 (35.6%)	38 冊 (64.4%)	59冊

を整理した。なお樹木が森の中の背景として描かれたり生け垣あるいは並木として複数本描かれている場合やページの端に樹木の一部のみが描かれ樹木全体の形態が描かれていない場合は対象から除外した。また、評価項目は各絵本の中で単独で描かれている場合のみでなく、複数ページにわたって描かれている場合もあるので、各形態的特徴が同一と思われるものは、その特徴が最もよく現わされている樹木を代表として集計の対象とした。

1.2 保育雑誌に描かれた樹木画

保育雑誌には幼稚園や保育所の保育室の壁面を飾る壁面装飾のアイデアやカットの例などが掲載されており、保育者が日々の保育場面でそれぞれ活用されているので、雑誌に掲載されている樹木画のもつ特徴がそのまま幼児の目に触れる可能性は高いといえる。月刊の保育雑誌のうち毎号壁面装飾が取り上げられている『Pri Pri』（世界文化社）、2011年から2012年までの2年間分24冊から樹木画が取り上げられている2011年8月、9月、10月号、2012年2月、9月、10月、11月号の計7冊を対象とした。また同じく2011年と2012年の別冊付録『イラストカット12か月』の2冊で扱われている樹木画のイラストを対象とした。

2 評価項目

樹木画の幹における「解釈の指標」となる①切り株、②洞、③幹の形態の特徴（曲がった幹、極端に傾いた幹）ならびに表皮の特徴（幹の傷）、④切り取られた枝、⑤その他を評価項目とした。

Ⅲ 結果ならびに考察

1 絵本に描かれた樹木について

1.1 対象となった絵本

樹木が描かれていた絵本21冊の書名ならびに評価項目については資料1にまとめたが、baumテストの解釈の指標とその描かれ方は表2に示す通りであった。このように樹木の描かれていた

絵本の約68%に「解釈の指標」が描き出されており、幼児が絵本を読むときにこれらの指標を目にする可能性は高いと考えられる。1冊の中に複数ページにわたり描かれていたり、異なる指標が描かれているものもあった。その組み合わせは、切り株と洞、切り株と切り取られた枝、切り株と幹の傾きなどであった。樹木が特異な形態をしていたものは、夢の世界を描いたり主人公が空想上の動物であるなど、物語の内容と関連があり、物語のイメージを豊かにするための演出として実在しない樹木を創造して描いたものと思われた。

表2 解釈の指標とその描かれ方

解釈の指標		描かれていた冊数		描かれ方
切り株		19 冊 (67.9%)	4 冊	イス、ステージ
洞			3 冊	鳥、小動物の巣
形態	曲がり・傾き		4 冊	
	傷・こぶ		3 冊	
	特異な形態		2 冊	
切り取られた枝			3 冊	
指標の該当なし		9 冊 (32.1%)		
計		延べ 28 冊		

また、解釈の指標をキーワードとして検索して得られた絵本のうち、樹木の描かれ方の確認ができた6冊を資料1とは別に集計の対象とした。その書名等の一覧を資料2に示した。

1.2 切り株

樹木が描かれていた21冊の絵本のうち、切り株は4冊に描かれていたが、その描かれ方をみると、樹木としての生命を絶たれた存在としてでは無く、主人公などが憩い、また、森の中心に置かれて主人公が登壇し、登場人物が腰をかけたり、上に立ったり、物が置かれたりしており、切り株はイスやテーブル、ステージとして描かれていた（図1～図4参照）。

一方、成人の場合に切り株が枯れ木として描かれた場合について高橋らは、「①劣等感、②無力感、③抑鬱感、④罪悪感などを表し」、切り株は、「自分の力ではどうにもできないと思っている心理的な外傷経験の存在を示している」と述べている⁷⁾。参考例として、生活上問題の認められない年長女兒の描いた切り株を図5に、また、言葉に問題をもつ成人男性で得られた切り株を図6に示した。女兒は切り株だけで無く横にハートの葉を付けた新たな樹木を描き、成人男性も「ひこばえ」を描き、被験者の抱える問題の改善に向け、新たな歩みを始めたことが窺える。

両者とも類似した結果を示しているが、背景は全く異なっていると考えられ、特に、幼児には、外傷体験もしくはそれに類する要因は見いだせておらず、成人を対象とした解釈とは異なった視点での解釈を検討することが求められている。



図1 切株の例1（イス）

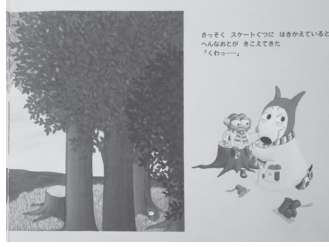


図2 切株の例2（イス）



図3 切株の例3（ステージ）



図4 切株の例4



図5 年長女兒の結果

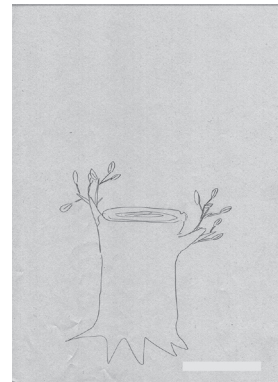


図6 成人男性の結果

（個人情報記載部分は削除した、大きさはA4版）

また、解釈の指標を検索語として得られた絵本には図3に示したように切り株を森の中心に置き皆が集う姿が描かれたものがみられた（資料2：No.1）。さらに、図4に示すように切り株を主人公として人格を与え、側面に顔が描かれている。絵本のタイトルが「きりかぶ」ならびに「きりかぶのともだち」としてシリーズとなっている絵本2冊のうちの1冊である（資料2：No.2・No.3）。

1.3 洞について

洞は、対象となった絵本21冊のうち3冊の絵本で描かれており、その特徴は次のようであった（図7、図8参照）。

絵本にみられる洞は、鳥やリスなどの小動物やドングリなどと共に描かれ、暖かい雰囲気と皆が集う場所や巣すなわち鳥や小動物の家として表現されていたものと洞のみが描かれているものとがあった。さらに前者は物語の主人公と関連づけられて描かれているものと背景の樹木の一部として物語の展開と直接的な結びつきがみられないものとの二つに分けることができた。

幼児の描く洞は、前者と後者の両方がある。筆者は、学童や成人では洞を塗りつぶしたテスト

結果を得ることはあるが、幼児での経験は無い。年齢の違いに起因するのか筆者が主な対象としている特別な支援や援助を必要とする子ども達の特性によるものか、背景に存在する問題の大きさに起因するものかは現段階では不明である。

洞の解釈において、少なくとも前者は、成人における代表的な解釈である「不安の存在」「心的外傷体験」⁸⁾や洞の中に鳥や小動物が描かれた場合は「心理的退行」「精神科疾患」と関連した解釈、特に塗りつぶされた洞については、「拭いがたい不安の現れ」、他にも薬物依存でのうろを「幼児期の情緒的外傷体験を示しているかもしれない」との記述もある⁹⁾。これと同等の解釈を幼児の描いたものから導き出すことは、軽々にすべきでなくむしろ、家庭的な暖かい心情をそのまま描いた可能性が否定できない。高橋らは⁷⁾、「うろの中の「動物」に①母親に依存した自分自身を象徴したり、②このような状態への憧れや引き込み傾向を表しがちである」と述べている。事例によっては、樹木画に描かれたものと現実の状況とが一致せず、樹木画には楽しさや暖かさが願望となって描かれている可能性も十分予測できる。しかし、幼児の表現特性からは直接的表現をとることが多いと思慮され、内在する心理的問題の現れとしての洞の描出は後者の表現をとることが容易に推測でき、直接的表現をとらないようになるのは学童期以降と思われる。成人では「心理的退行」や「現実からの逃避」と関連づけて解釈することは至当と思われるが、解釈は個々の事例について様々な情報を得て、それらを総合し合理的な判断を導き出さなければならないものであるから、ここでは短絡的な解釈にならないよう指摘するにとどめておきたい。



図7 洞の例（資料1：No.1）
（鳥が描かれている）



図8 洞の例（資料2：No. 4）
（鳥や小動物は描かれていない）

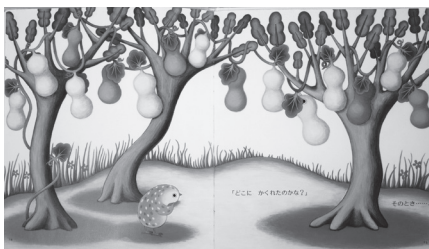


図9 曲った木の例
（資料1：No. 4）



図10 傾いた木の例
（資料1：No. 10）

1.4 樹木の曲り、傷、切り取られた枝について

樹木の曲りや傾いて描かれたものは21冊中それぞれ2冊ずつみられた。枝が幹の所で切り取られて節や年輪が描かれたり、剪定されたように枝の途中で切られている樹木が絵本によく描かれている。それに比べ、曲がったり傾いたりしている樹木が描かれた絵本は、その物語独特の世界観を表現しようと意図したものと思われる（図9、図10参照）。

また、幹の傷については、絵本においては幹に陰影をつけた立体表現と思われるものと物語の展開で幹に印を刻んだものはあったが、明らかに幹に傷をつけた樹木は見られなかった。しかし、どれも例数が少なく、共通する特徴などは見いだせなかった。

2 保育雑誌に描かれた樹木について

取り上げた保育雑誌7冊で扱われた壁面は、表3に示したように壁面装飾の総面数85面中34面（40.0%）で樹木が描かれ、そのうちの切り株が13面、洞が5面、剪定された枝や曲りなどが6面と「解釈の指標」の合計が34面中24面（70.62%）に描かれていた。なお切り株に関する描かれ方は、テーブル2面、ステージやイス3面、指揮台3面であった。なお、背景の一部として切り株が描かれていた2面では動物などは描かれていなかった。一方、洞は、扉が付けられたり窓や巣穴として描かれ、中に動物や食べ物が描かれるなど家（巣）として描かれていた。

表3 保育雑誌の壁面装飾例における樹木

発行月・号数	樹木の壁面					樹木以外の壁面	総壁面数
	切り株	洞	枝・曲	他	計		
2011年8月号	1			2	3	9	12
9月号	5	1		3	9	3	12
10月号		1	2	1	4	2	6
2012年2月号		1	1		2	11	13
9月号	3		2	2	7	7	14
10月号	3	1	1	1	6	8	14
11月号	1	1		1	3	11	14
計	13	5	6	10	34	51	85

このように壁面装飾の例として描かれた樹木には木の実や小動物と一緒に描かれるなど生活場面が描かれていた。切り株は物語の主役ではないが、家や身の回りの生活に必要なテーブル、イス、音楽会のステージ、お店屋さんごっこの場面での商品の陳列棚など幼児の幼稚園や保育園での日常と密接に関連した場面が描き出されており、幼児にとっては、切り株や洞は、どれも親しみの持てる場面として捉えられていると言えよう。

枝の描かれ方は、一般には先端になるほど細く描かれるが、選定されたように角のある描かれ

方も見られた。先端に年輪が見られるものもある（図16参照）。絵本と異なり壁面装飾では、幼児と一緒に製作活動として皆で壁面の製作を行うことがある。その際に用いられる素材は折り紙や模造紙、色画用紙などであり、それらを切ったり丸めたりして幹や枝を作ることになる。このような活動を通して作られた枝などを模造紙に貼って仕上げていくが、枝の先端は結果として細くはならず、太さの変化も乏しい物となる。また平面の場合も次第に細くなるような切り方は幼児にとっては難しく、枝は直線的なものになる、はさみなどで切る場合も先端がある程度太い方が切りやすく、切った物を糊で貼る場合も貼りやすいなど枝の形態は製作過程からの影響も受けていると言える。

また輪郭のみの表現では、鋭角の先端よりも丸みを付けた方が柔らかく優しい印象を与えるので、明るさや楽しさを印象づける表現としては、保育室の壁面を飾る目的に合致した形であり保育場面で描かれる切り株や洞などは、バウムテストの指標としてのそれとは質の異なるものである可能性があることを考慮しておかなければならないであろう。



図11 切り株(テーブル)



図12 切り株(指揮台)



図13 切り株(指揮台)



図14 洞(家)



図15 切り株と洞



図16 枝(剪定)



図17 枝(先端の丸み)

3 イラスト・カットとして描かれた樹木について

イラストやカット集2冊に見られた樹木は、メッセージを書く飾り枠やカットの例であるが、

樹木の描かれ方は線画で、はっきりと太く単純な形をした描き方を特徴としていた。壁面装飾と同様にイラストやカットの表現に解釈の指標となる切り株や洞をみることができ、どちらも、心理的な背景や何かの事象の象徴といった意味合いを連想させるものではなく、自然の一部としてごくありふれた親しみを持った対象として扱われていた（図18～図20参照）。こうしたイラストやカットは、保護者向けのクラス便りだけでなく保育者が様々なアレンジを加えて保育教材として活用したりするため、幼児がそれらを目にする機会も多いと考えられる。



図18 カット(切り株)



図19 カット(切り株)



図20 カット(切り株と洞)

4 幼児が描く幹部の解釈について

幼児向けの絵本や壁面装飾などから受ける印象、すなわち明るく楽しく憩う場所としての切り株や洞、表現の技法として現された剪定された枝など、どれも親しみの持てるものとして幼児が捉えられていると思われる。本野は¹⁰⁾「幼児においては表現の大部分が自己の要求や感情を中心とする主観的表現である。たとえ描画の対象を指定したとしても、かれらの描画は対象に忠実では無くて自己に忠実である。（中略）次第に表現に客観性を示すようになり、ついに自己の要求や感情が抑えられてしまう。表現に理解や知識の要素が大きく力をふるうようになる」と述べている。絵を描くことが好きで、描くことが楽しいと感じている時に、楽しい生活場面のイメージと結びついた切り株を描くこと、また、洞の中に描かれた小動物から感じとれた楽しさや暖かさを描こうとする時などに輪郭線のみで描きやすい樹木を通してその心情を描き出している可能性があることにも留意することが、幼児の描く樹木画の解釈において幼児の心理特性を考慮した視点に立った解釈に結びつくものと思われる。

また、こうした幼児期における各指標に対する考え方は、成人の描く樹木画の解釈において、「幼児性の現れ」や「心理的退行」と結びつけて問題を理解しようとするときに、樹木画に現されたその表現を選択したことの根底に横たわっている心情が何に渴望し、何を希求しているかを推定

する時にも有用な示唆を与えるのではないだろうか。

IV まとめ

幼児に対する樹木画テストの結果を解釈する際、「幹部」に見られる特徴の解釈について示唆を得ようと考え、Webランキング上位の絵本21冊と解釈の指標をキーワードとして検索して得られた絵本6冊の計27冊に描かれている樹木ならびに保育雑誌の壁面装飾の34例に取り上げられている樹木を対象として、それぞれ樹木がどのように描かれているのかを整理し、次の知見を得た。

1. 樹木の描かれていた絵本の約68%に「解釈の指標」が描き出されていた。従って、絵本を読むことを通して日頃から、樹木画テストで解釈の指標とされている樹木の特徴を目にしているものと推定され、幼児にとっては、よく目にする樹木の形態の一つとして捉えられている可能性が推定された。
2. 絵本における切り株の描かれ方は、樹木としての生命を絶たれた存在としてでは無く、主人公などが憩い、登場人物が腰をかけたり、物が置かれたりなど、切り株はイスやテーブル、ステージなど物語の進行と関連のある存在として描かれていた。
3. 絵本に描かれた洞の多くは、鳥やリスなどの小動物やドングリなどと共に描かれ、暖かい雰囲気と皆が集う場所や巣すなわち鳥や小動物の家として表現されていた。
4. 壁面装飾として描かれた樹木には木の実や小動物と一緒に描かれるなど生活場面が描かれていた。切り株は物語の主役ではないが、幼児の幼稚園や保育園での日常と密接に関連した場面が描き出されており、幼児にとっては、切り株や洞は、どれも親しみの持てる場面として捉えられていた。
5. イラストやカットの表現は、壁面装飾と同様に解釈の指標となる切り株や洞をみることであり、どちらも、心理的な背景や何かの事象の象徴といった意味合いを連想させるものでは無く、自然の一部としてごくありふれた親しみを持った対象として扱われていた。
6. 幼児を対象とした樹木画にみられる「切り株」や「洞」は、成人とは異なったイメージや幼児の心理特性をもとに心情が描き出されている可能性が考えられ、樹幹部を解釈する際には、幼児の心理特性を十分考慮して慎重に行わなければならないと考えられた。

なお、幹の曲りや傾き、剪定された枝などの表現については、例数が少なく十分な検討ができなかった。今後の検討課題としたい。

[文献]

1. C. コッホ, 著, 林勝造, 国吉政一, 一谷彊, 訳, 『バウム・テスト－樹木画による人格診断法－』, 日本文化科学社, 2007
2. カール・コッホ, 著, 岸本寛史, 中島ナオミ, 宮崎忠男, 訳, 『バウムテスト第3版, 心理的見立ての補助手段としてのバウム画研究』, 誠信書房, 2013

3. 山中康裕,岸本寛史,著,『コッホの「バウムテスト」[第三版]を読む』,創元社,2011
4. 石川清明,「幼児ならびに伝達障がい児に対する樹木画テストの教示に関する基礎的研究」,『國學院大學人間開発学研究』,第5号,53-64,2014
5. 石川清明,「幼児の樹木画テストにおける「樹冠」の解釈について」,『國學院大學人間開発学研究』,第6号,61-72,2015
6. 皆本二三江編著,『0歳からの表現・造形』,210,および219,文化書房博文社,1991
7. 高橋雅春,高橋依子,著,『樹木画テスト』,48-49,文教書院,2008（初版16刷）
8. 杉浦京子,金丸隆太,著,『投影描画法テストバッテリー,星と波描画テスト,ワルテック描画テスト,バウムテスト』,136-137,川島書店,2012
9. ドウニーズ・ドゥ・カスティエーラ著,阿部恵一郎,訳,『バウムテスト活用マニュアル』,精神症状と問題行動の評価,29,185,金剛出版,2011
10. 本明 寛,『改訂造形心理学入門』,199,美術出版社,1962

V 資料

[対象とした絵本]

グループA： 絵本のアマゾンランキング（2015年7月2日現在）

<http://www.amazon.co.jp/gp/bestsellers/books/492378>

グループB： 絵本ナビ、レビュー順位

<http://www.ehonna.net/ReviewRanking.asp?skb=&k=>（2015年7月2日現在）

グループAのみ3冊、グループBのみ11冊、グループA B共通7冊、計21冊

資料1： 対象として選定された絵本一覧

No	書 名	著 者	出版社	出版	A	B	指標等
1	ぐりとぐら	中川李枝子・大村百合子	福音館書店	1967	6	8	切株・洞・枝
2	はらぺこあおむし	エリック・カール、もりひさし	偕成社	1976	11	1	傷
3	ぐるんぱのようちえん	西内ミナミ、堀内誠一	福音館書店	1996	18	23	背景
4	うずらちゃんのかくれんぼ	きもとももこ	福音館書店	1994	26	15	曲り
5	からすのパンやさん	加古里子	偕成社	1973	32	14	切株・枝
6	わたしのワンピース	西巻茅子	こぐま社	1969	35	18	枝

幼児の樹木画テストにおける「樹幹」の解釈と絵本に描かれた樹木について（石川）

7	三びきのやぎのがらがらどん	ノルウェーの昔話・ 絵：マーシャ・ブラ ウン・訳：瀬田貞二	福音館書店	1965	37	29	特異な形態
8	100万回生きたねこ	佐野洋子	講談社	1977	12		なし
9	おこだでませんように	くすのきしげのり、 石井聖岳	小学館	2008	20		なし（並木）
10	おおきな木	シエル・シルヴァ スタイン（Shel Silverstein） 村上春樹	あすなろ書房	2010	30		切株・傷 曲り・傾き
11	はじめてのおつかい	筒井頼子・林明子	福音館書店	1977		12	なし（生垣）
12	こんとあき	林明子	福音館書店	1989		17	なし（背景）
13	バムとケロのさむいあさ	島田ゆか	文溪堂	1996		22	切株・洞
14	てぶくろ	ウクライナ民話・絵： エウゲーニ・M・ラ チョフ 訳：内田莉莎子	福音館書店	1965		25	なし
15	どうぞのいす	香山美子・絵：柿本 幸造	ひさかたチャ イルド/チャ イルド本社	1981		26	なし
16	ぞうくんのさんぽ	なかのひろかた	福音館書店	1977		27	特異な形態
17	バムとケロのおかいもの	島田ゆか	文溪堂	1999		28	なし
18	くれよんのくろくん	なかやみわ	童心社	2001		30	傾き
19	パパ、お月さまとって！	エリック・カール・訳： もりひさし	偕成社	1986		32	なし
20	めっきらもっきらどおんどん	長谷川摂子・絵：ふ りやなな	福音館書店	1990		34	根部に穴
21	かいじゅうたちのいるところ	モーリス・センダック 訳：じんぐうてるお	富山房	1975		36	こぶ

注）表内のA及びBの数字は各グループの順位を示す

資料2：その他の検索で選定された絵本一覧

No	書名	著者	出版社	出版	指標等
1	もりのオンステージ	角野栄子、絵：飛田京子	文溪堂	2005	切株
2	きりかぶ	なかやみわ	偕成社	2003	切株
3	きりかぶのともだち	なかやみわ	偕成社	2003	切株

幼児の樹木画テストにおける「樹幹」の解釈と絵本に描かれた樹木について（石川）

4	もりのなか	マリー・ホール・エッツ、訳： まさきるりこ	福音館書店	1963	洞・動物なし
5	家の中をのぞいてごらん	アネット・チゾンとタラス・ テラー、訳：竹林亜紀	評論社	1984	洞・動物
6	おやすみなさい	いりやまさとし	学習研究社	2004	洞・リス

（いしかわきよあき 國學院大學人間開発学部子ども支援学科准教授）